

生き物を殺さないための性的禁欲

——ジャイナ教在家信者の行動規範を中心に——

堀 田 和 義

1. はじめに ジャイナ教在家信者の行動規範を記したシュラーヴァカ・アーチャーラ文献（以下、ŚĀ 文献）の記述は、不殺生、真実、不盗、不邪淫、無執着という 5 つの小誓戒 (aṇuvrata) とそれらを補助する 3 つの徳戒 (guṇavrata), 4 つの学習戒 (śikṣāvratā) とを中心とする。ŚĀ 文献には、不邪淫戒を守る理由として、不殺生戒を守るためであることを述べるものが見られる。独立性が高く、本来は直接的な関係がないように見える両者の間にはどのような関係があるのだろうか。本稿では、ŚĀ 文献における不殺生と不邪淫との関係を、不邪淫を中心として、それに不殺生がどのように関わっているのかという視点から検討する。

2. ジャイナ教在家信者の誓戒と不殺生

2.1. 不殺生の重要性 ジャイナ教では不殺生を 5 つの小誓戒の筆頭に挙げており¹⁾、小誓戒は中身も順序も固定されていて文献ごとの違いはない。一方、徳戒・学習戒は、数に変動はないが、中身は文献ごとに異なる。徳戒・学習戒の多くは小誓戒の補助を目的とし、例えば、方位に関する誓戒は、生涯、行動範囲を十方にわたって制限し、その境界の外側で起こす可能性のある殺生を回避するためのもの、無意味な毀損に関する誓戒は、殺生につながる可能性のある悪しき考えや行動を厭離するためのものである。以上のように、ジャイナ教在家信者の徳戒・学習戒と不殺生戒との密接な関連はその成立背景に照らしても明らかである。

2.2. 不殺生の拡大解釈 一方、ŚĀ 文献には、他の 4 つの小誓戒と不殺生とを結び付けて説く例がある。例えば、*Puruṣārthasiddhyupāya*（以下、PASU）98–99 は「他者に不快感、恐怖、苦悩、敵意、悲しみ、諍いをもたらすもの、および他にも苦しみをもたらすもの、そのすべては好ましくないものであると知られるべきである。これらすべてにおいて、注意を怠った者の行動の唯一の原因が述べられているから、偽りの言葉にも殺生が必ず生じる」と述べる。ここでは物理的な殺生ではなく、「不注意」という心の状態が問われている²⁾。また、欲望 (rāga) も

(224)

生き物を殺さないための性的禁欲 (堀 田)

殺生の要件とされ³⁾、心の状態を重視して、誓戒の区分は仮のもので、すべてが殺生であるとする例もある⁴⁾。他にも、殺生の原因であること、財産が人間の外的生命であることを根拠に、盗みは殺生であると述べる例もあるが⁵⁾、これらの例は間接的な関与や比喩的な表現であると考えられる。ところが、不邪淫戒に関してはそうとも言い切れない例がしばしば認められる。以下においては、不邪淫に関する規定を概観した後⁶⁾、そのような用例を見ていく。

3. ŚĀ 文献における不邪淫

3.1. 不邪淫に関する規定 出家修行者の大誓戒の中身は在家信者の小誓戒と同じであるが、全面的に守らなければならない点が異なる。一方、在家信者の小誓戒は、部分的に守ることが求められる。ŚĀ 文献には、不邪淫戒の名前に言及しないものもあれば⁷⁾、小誓戒を分類する際に名前を挙げるだけのものもある⁸⁾。多くの文献に共通するところをいくつか拾い出すならば、自分の妻に対する満足⁹⁾、人妻の厭離¹⁰⁾、もしくはその両方を挙げ¹¹⁾、人妻を自分の母親・姉妹・娘のように見なすように説き¹²⁾、さらには不浄観を説くものもある¹³⁾。また、人妻に手を出して身を滅ぼした者の実例として *Rāmāyaṇa* のラーヴァナを挙げるものも多い¹⁴⁾。このように、在家信者の場合には、人妻の厭離、自分の妻に対する満足と表現されていることから明らかなように、不邪淫戒では配偶者との性交は認められている。しかしながら、たとえ配偶者が相手であっても、性交そのものに殺生が伴うことを述べる文献も見られる。以下においては、それらの具体例を見ていく。

3.2. 性交に伴う殺生 性交に伴う殺生として、例えば、白衣派の有名な学僧 Hemacandra の *Yogaśāstra* (以下, YŚ) 2.79–80 は、「女性器に生じる非常に微細な生物の集まりが、[男性により] 圧せられて死んでしまう性交を放棄すべきである。血液から生じる微生物は弱・中・強の力を持ち、それに応じて産道に痒み (kaṇḍūti, ムズムズする感じ) を生み出す」¹⁵⁾ と述べる。同様の記述は、*Umāsvāmiśrāvākācāra* (以下, Śr(U)) 372–373, *Dharmaratnākara* (以下, DhR) 10.1–2, PASU 107–109, *Śrāvākācārasāroddhāra* (以下, Śr(PN)) 3.232 にも見られる。また、*Sāgāradharmāmṛta* (以下, SDhA) 4.55 は「女性に近づく者は欲望と憎悪とを必ず有しており、女性器内の多くの微生物を殺める。したがって、たとえ自分の妻に近付いていても殺生者である」¹⁶⁾ というように、心の状態についても述べる。その他にも、*Dvādaśānuprekṣāṭīkā* (以下, KAT)¹⁷⁾、*Praśnottaraśrāvākācāra* (以下, Śr(S)) 33.16–19, *Tattvārthasūtra* の Śrutasāgara 注 (以下, T(Ś))¹⁸⁾ などのほか、女性の解脱

を認めない空衣派の文献にもしばしば見られる¹⁹⁾。したがって、不邪淫戒の場合は、人妻に近付けば不邪淫戒に違反し、自分の妻に近付いても不殺生戒に違反するという構造になっており、在家信者といえども、究極的には完全な性的禁欲が求められていると言える²⁰⁾。

女性器内の微生物に関しては、*Mahānisiha*²¹⁾、*Abhidharmakośabhāṣya*（以下、AKBh）²²⁾、*Jayamaṅgalāṭīkā*²³⁾、*Ratirahasya*（以下、RR）²⁴⁾にも見られる。また、*Carakasamhitā*では人体に寄生する微生物を除く方法が各所で述べられ、*Suśrutasamhitā*（以下、SS）には血液から生じる微生物に関する記述が見られる²⁵⁾。どの文献がより古いのかは不明だが、医学文献は微生物が引き起こす病気やその治療法、仏教文献は再生の過程や不浄観、カーマ文献は快楽をもたらす原因の説明の際に、それぞれの教理・目的に合わせて言及している。そしてジャイナ教文献では、不浄観だけでなく、不邪淫の説明でも言及する点が特徴的である。

4. むすび ここまでに述べてきたことをまとめて本稿のむすびにかえたい。

(1) ジャイナ教在家信者の不殺生戒と徳戒・学習戒との密接な関連はその成立背景に鑑みても妥当であるが、一見したところ独立性の高いと考えられる他の4つの小誓戒も不殺生に関連付けられる。ただし、不盗戒などと不殺生戒との関連は、心の状態の共通性や殺生の間接的原因である点に由来するが、不邪淫戒の場合はそれを守っていても不殺生戒に抵触する。(2) 不邪淫戒と殺生との結び付きには、他の誓戒と同じ心の状態に由来する心理的殺生だけでなく、性交により女性器内の微生物を殺めることに由来する物理的殺生という、不邪淫戒に固有のものがある。(3) 女性器内の微生物に関する記述は、ジャイナ教文献以外にも認められるが、それぞれの教理・目的に合わせて用いられており、仏教と同様の不浄観の説明だけでなく、不殺生と結び付けるためにも用いられる点がジャイナ教の特徴であると言える。

1) その意義については、*Tattvārthasūtra* 7.1 に対する T(P) などを参照。 2) こ

のような態度については、土橋 1979, 宇野 2013 等を参照。また、Kawasaki 2014, Kobayashi 2014 もそれぞれ不盗戒と不邪淫戒とに関して同様の問題を取り上げる。 3) PASU

44, 46, 107. 4) PASU 42. 5) PASU 102–103. 6) 先行研究としては、

Williams 1963, pp.84–93; Sogani 1967, pp.84–85; Bhargava 1968, pp.121–122 等を参照。

7) US 24, DhB 3.19, Śr(VS) 24. 8) Śr(PN) 123. 9) DVU 6. 10) CP

23, PAA 4.92, PP 5–6, PRP 303, BhS(D) 4, BhS(V) 11, RM 15, Śr(G) 3.14, ŚrDK 6.15.

11) KAT on KA 337–338. (=RK 59cd), CPT on CP 21, CS p.248, NPP 54. (NPPV も同様), PASU 110, BhDhU 259, YŚ 2.79, RK 59, LS 5.60, VC 9, Śr(A) 6.66, Śr(AD) 96.143, Śr(U) 368

(226)

生き物を殺さないための性的禁欲 (堀 田)

(= Śr(PN) 3.216), Śr(B) 40, Śr(M) 3.62–63, Śr(S) 15.3–4, ŚrPr 270, ŚrPrV on ŚrPr 270, HP 27. 12) DhR 11, PAA 94, BhDhU 259, BhS(V) 15, YTC 379, RM 42, VC 9, Śr(A) 6.64, Śr(PP) 24, Śr(S) 15.3, 32.2–3. 13) KA 36–37, Śr(S) 33.5–7. 14) Doha 63, YŚ 2.99, Śr(G) 3.16–17, Śr(S) 15.127. 15) YŚV では第 80 詩節を *Kāmasūtra* の作者 Vātsyāyana の言葉とする. 16) 同様の記述は, Śr(M) にも見られる. Kobayashi 2014 は, 性行為に必ず欲望と憎悪とが付随するという考え方が *Brhatkalpabhāṣya* の伝統を有する白衣派の *Tattvārthasūtra* の注釈に認められると指摘する. 17) KA には微生物に関する記述がないが, KAT は KA 384 の “sadayah” という語に不殺生を読み込んで微生物に言及する. 18) 空衣派の *Tattvārthasūtra* 5.16 の注釈は, T(Ś) のみ *Jñānārṇava* 13.21 を引用したうえで微生物に言及する. 19) この点については, Jaini 1991, 長尾 1999 等を参照. 20) 例えば, *Yuktiṣraddhā* では, これらの微生物が二つ以上の感官を所有する可動生物 (trasa) であることが明記されており, 不殺生戒に抵触することは明らかである. Jaini 1991, p.179 #69 を参照. また, ヴェーダ文献には「性交」を意味し, āhan を語源とすると考えられる āhanāśya- という語が見られるため, 性交に対するジャイナ教のこのような態度の背景には, han という動詞を介して連想が働いた可能性も考えられる. 以上の点は, 日本印度学仏教学会第 65 回学術大会における発表の際に天野恭子氏 (日本学術振興会特別研究員, 京都大学人文科学研究所) からご教示いただいた. ここに記して感謝申し上げたい. āhanāśya- の用例に関しては, Amano 2009, p.220 n.461 を参照. 21) *Mahānīśiha* 6.101. Schubring 1918, p.70 を参照. 22) AKBh, p.130, ll.11–13. また, そのソースと考えられる *Garbhāvakraṇṭisūtra* の記述に関しては, Kritzer 2004, pp.1088–1089 を参照. 以上の点については, 名和隆乾氏 (大阪大学大学院) からご教示いただいた. ここに記して感謝申し上げます. 23) YŚ, vol.1, p.333 の注による. ただし, 現行版本には見当たらない. 24) RR 3.8. YŚ 2.80 はこの詩節と非常に類似した詩節を「Vātsyāyana の詩節」として引用している. YŚ, vol.1, p.133, および Quarnström 2002, p.63 を参照. 25) SS 54.6. この部分の和訳に関しては, 大地原 1993, p.785 を参照.

〈略号〉

AKBh Vasubandhu: *Abhidharmakośabhāṣya*, Tibetan Sanskrit Works Series, vol.8, Patna, 1967. **US** Padmanandin: *Upāsakasamśkāra* in *Pañcaviṃśati*, Jīvarāja Jaina Granthamālā, no.10, Solāpūr, 1962. **KA** Kārttikeya: *Dvādaśānupreṣā*, Śrīmad Rājacandra Jaina Śāstramālā, Agās, 1960. **KAT** Śubhacandra: *Dvādaśānupreṣāṭīkā* → **KA**. **KS** Vātsyāyana: *Kāmasūtra*, Kāśī Saṃskṛta Granthamālā, no.29, Vārāṇasī, 1999. **CP** Kundakunda: *Cāritraprābhṛta* in *Aṣṭapāhuḍa*, Sonāgir, 1989–90. **CPT** Śrutasāgara: *Cāritraprābhṛtaṭīkā* → **CP**. **CS** Cāmaṇḍarāya: *Cāritrasāra* → **ŚĀS 1** **JMT** Yaśodhara: *Jayamaṅgalaṭīkā* → **KS**. **T(P)** Pūjyapāda: *Tattvārthasūtra*, Bhāratiya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha, no.13, Vārāṇasī, 1971. **T(Ś)** Śrutasāgara: *Tattvārthasūtra*, Bhāratiya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha, no.4, New Delhi, 1999. **Doha** *Sāvayadhammadohā* → **ŚĀS 1**. **DVU** Padmanandin: *Deśavratodyotana* in *Pañcaviṃśati* → **US**. **DhB** Haribha-

dra: *Dharmabindu*, Bombay, 1993. **DhBV** Muncandra: *Dharmabinduvṛtti* → **DhB**. **DhR** Jayasena: *Dharmaratnākara*, Jīvarāja Jaina Granthamālā, no.24, Solāpūr, 1974. **NPP** Devagupta: *Navapadaprakaraṇa*, Bombay, vi° sam° 2045. **NPPV** Yaśodeva: *Navapadaprakaraṇavṛtti* → **NPP**. **PAA** Govinda: *Puruṣārthānuśāsana* → **ŚĀS 3**. **PASU** Amṛtacandra: *Puruṣārthasiddhyupāya*, Śrīmad Rājacandra Jaina Śāstramālā, no.7, Agās, 1977. **PP** Raviṣeṇa: *Padmapurāṇa*, Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha, no.21, New Delhi, 2003. **PRP** Umāsvāti: *Praśamaratiprakaraṇa* in *Tattvārthasūtra*, Bibliotheca Indica, Calcutta, 1903. **BhDhU** Jinadeva: *Bhavyadharmopadeśopāsakādhyayana* → **ŚĀS 3**. **BhS(D)** Devasena: *Prākṛtabhāvasaṃgraha* → **ŚĀS 3**. **BhS(V)** Vāmadeva: *Saṃskṛtabhāvasaṃgraha* → **ŚĀS 3**. **YTC** Somadeva: *Yasastilakacampū*, Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha, no.28, Vārāṇasī, 1964. **YŚ** Hemacandra: *Yogaśāstra*, Mum̄baī, 1977. **YŚV** Hemacandra: *Yogaśāstravṛtti* → **YŚ**. **RK** Samantabhadra: *Ratnakaraṇḍaśrāvākācāra*, Māṇikacandra Digambara Jaina Granthamālā, no.24, Bombay, vi° sam° 1982. **RKT** Prabhācandra: *Ratnakaraṇḍaśrāvākācāraṭīkā* → **RK**. **RM** Śivakoṭi: *Ratnamālā* → **ŚĀS 3**. **RR** Kokkoka: *Ratirahasya*, Kṛṣṇadāsa Saṃskṛta Series, no.142, Vārāṇasī, 1994. **LS** Rājamalla: *Lāṭisaṃhitā*, Māṇikacandra Digambara Jaina Granthamālā, no.26, Bombay, vi° sam° 1984. **VC** Jaṭāsiṃhanandin: *Varāṅgacarita*, Bhāratavarṣīya Anekānta Vidvat Pariṣad, no.24, Vārāṇasī, 1996. **ŚĀS 1** *Śrāvākācārasaṃgraha*, vol.1, Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga, no.27, Solāpūr, 1976. **ŚĀS 2** *Śrāvākācārasaṃgraha*, vol.2, Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga, no.28, Solāpūr, 1976. **ŚĀS 3** *Śrāvākācārasaṃgraha*, vol.3, Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga, no.29, Solāpūr, 2003. **Śr(A)** Amitagati: *Amitagatiśrāvākācāra* → **ŚĀS 1**. **Śr(AD)** Abhradeva: *Vratodyotanaśrāvākācāra* → **ŚĀS 3**. **Śr(U)** Umāsvāmin: *Umāsvāmiśrāvākācāra* → **ŚĀS 3**. **Śr(G)** Guṇabhūṣaṇa: *Guṇabhūṣaṇaśrāvākācāra* → **ŚĀS 2**. **Śr(PN)** Padmanandin: *Śrāvākācārasāroddhāra* → **ŚĀS 3**. **Śr(PP)** Pūjyapāda: *Śrīpūjyapādaśrāvākācāra* → **ŚĀS 3**. **Śr(B)** Brahmanemidatta: *Dharmopadeśapīyūṣavarṣaśrāvākācāra* → **ŚĀS 2**. **Śr(M)** Medhāvin: *Dharmasaṃgrahaśrāvākācāra* → **ŚĀS 2**. **Śr(V)** Vasunandin: *Vasunandiśrāvākācāra*, Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Prākṛta Grantha, no.3, Vārāṇasī, 1952. **Śr(VS)** *Vratasāraśrāvākācāra* → **ŚĀS 3**. **Śr(S)** Sakalakīrti: *Praśnottaraśrāvākācāra* → **ŚĀS 2**. **ŚrDK** Devendra: *Śrāddhadīnakṛtya*, Bombay, vi° sam° 2045. **ŚrDKV** Devendra: *Śrāddhadīnakṛtyavṛtti* → **ŚrDK**. **ŚrPr** Umāsvāti: *Śrāvākācāraprajñapti*, Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Prākṛta Grantha, no.8, New Delhi, 1999. **ŚrPrV** Haribhadra: *Śrāvākācāraprajñaptivṛtti* → **ŚrPr**. **SDhA** Āśādhara: *Sāgāradharmāmṛta*, Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha, no.47, Vārāṇasī, 2000. **SRS** Amitagati: *Subhāṣitaratnasam̄doha*, Jīvarāja Jaina Granthamālā: Hindī Vibhāga, no.31, Solāpūr, 1977. **SS** Suśruta: *Suśrutasaṃhitā*, Haridas Ayurveda Series, no.9, Vārāṇasī, 2001. **HP** Jinasena: *Harivaṃśapurāṇa*, Bhāratīya Jñānapīṭha Mūrtidevī Jaina Granthamālā: Saṃskṛta Grantha, no.27, Vārāṇasī, 1962.

(228) 生き物を殺さないための性的禁欲 (堀 田)

〈参考文献〉

(欧文)

Amano, Kyoko. 2009. *Maitrāyaṇī Saṃhitā I-II*. Bremen: Hempen Verlag.

Bhargava, Dayanand. 1968. *Jaina Ethics*. Delhi: Motilal Banarsidass.

Jaini, Padmanabh S. 1991. *Gender and Salvation: Jaina Debates on the Spiritual Liberation of Woman*. Berkeley: University of California Press.

Kawasaki Yutaka. 2014. "Interpretations of *adattādāna* in Jainism." *Indogaku Bukkyōgaku kenkyū* 印度学仏教学研究 62 (3), pp.49–54.

Kobayashi Hisayasu. 2014. "Some Notes on *Brahmacarya* in Jainism." *Indogaku Bukkyōgaku kenkyū* 印度学仏教学研究 62 (3), pp.42–48.

Kritzer, Robert. 2004. "Childbirth and the Mother's Body in the *Abhidharmakośabhāṣya* and Related Texts." In *Mikogami Eshō kyōju shōju kinen ronshū: Indo tetsugaku Bukkyō shisō ronshū* 神子上恵生教授頌寿記念論集: インド哲学佛教思想論集, pp.1085–1109. Kyoto: Nagata Bunshōdō.

Quarnström, Olle. 2002. *The Yogaśāstra of Hemacandra: A Twelfth Century Handbook on Śvetāmbara Jainism*. Cambridge: Harvard University Press.

Schubring, Walther. 1918. *Das Mahānisiha-Sutta*. Berlin: Verlag der Königl. Akademie der Wissenschaften.

Sogani, Kamal Chand. 1967. *Ethical Doctrines in Jainism*. Jīvarāja Jaina Granthamālā, no.19. Solāpūr: Jaina Samskriti Samrakshaka Sangha.

Williams, Robert. 1963. *Jaina Yoga: A Survey of the Mediaeval Śrāvakācāras*. London Oriental Series 14. London: Oxford University Press.

(和文)

宇野智行. 2013. 「不殺生と不注意 (pramāda)」, 『印度学仏教学研究』 62 (1), pp.230–236.

大地原誠玄. 1993. 『スシュルタ本集』 第2巻. たにぐち書店.

土橋恭秀. 1979. 「Himsā の大小について」, 『印度学仏教学研究』 27 (2), pp.27–31.

長尾聖生. 1999. 「ジャイナ教における女性解脱論」, 『印度学仏教学研究』 48 (1), pp.53–56.

〈キーワード〉 シュラーヴァカ・アーチャーラ文献, 小誓戒, 徳戒, 学習戒, 不殺生, 不邪淫

(大谷大学任期制助教)